

めぐみの森だより

2024年5月号



社会福祉法人 雲柱社 めぐみの森保育園

☎ 03-3480-4448

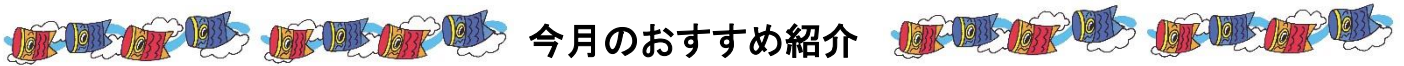
4月の園だよりを発行したのがついこの間のような気がします、あっという間の1か月でしたね。保育園で一番賑やかなのがこの4月、特に新入園児を迎える1階にある乳児クラスは泣き声の合唱が響いています。今では時々漏れてくる泣き声で、誰が泣いているのか少しずつわかってきました。

先日、卒園したばかりの小学1年生が下のお子さんのお迎えにお母さんと一緒に来てくれました。玄関で一人待っていたので、いろいろな先生が「久しぶりだね。」「学校どう?」と次々に話しかけると、こわばりながら笑顔を見せてくれ、丁寧に質問に答えていました。思わず、「緊張しているの?」と訪ねると「うん。」ついこの間卒園したばかりの保育園でさえも、その子にとっては、どんな顔をしていいのか緊張していたようでした。

その日の夕方だったか、次の日だったか、今度は事務室で、「毎日緊張しながら出勤しています。」「そっか、まだ緊張しているんだね。」今年から入った職員と先輩職員のこんな会話が聞こえました。大人でも、新しい場所や新たなスタートは緊張しますね。ましては、保育園に入ったばかりの小さな子どもたちは、緊張が何なのかわからない中、いろいろな感情が入り混じり、泣くという表現で思いを伝えています。朝の時間2歳児クラスに入る機会があり、少しの時間を過ごしました。一人のお子さんはことばもはっきりし、「ほいくえんいかない。ままのとこいく。」と泣きながら訴えています。こちらは、「そうだね。ママのところ行きたいね。」といいながら、あそびに誘ったり、「今日は〇〇色の洋服着てきたの?」と声を掛けたりしました。泣きながらも周りを観察し、時々泣きやみおもちゃを取ろうとすることもありました。そして、園庭にでる準備のためにテーブルにお茶のコップを置くと、「〇〇くんと、〇〇ちゃんの。」とクラスの子の名前を言い出し、「そうだね。〇〇くんもあるね。」と話していくと、泣き止みはじめ「〇〇ちゃん。〇〇くん。」と周りにいる友だちを確認しながら、自分がここにいることを自分なりに納得させているようでした。

4月に入園した子どもたちは、1か月が経ち登園時泣く姿はまだあるものの、少しずつ笑顔も見られ、リラックスした姿も見せてくれるようになっていきます。きっと、保育園という社会の中で、子どもたちみんなが全く緊張せずにいることはなかなか難しいことと思いますが、入園したばかりの子どもたちにとっても、進級した子どもたちにとっても、保護者の方にとっても少しでも安心しほっとできる場所となれるように、丁寧に日々を積み重ねていきたいと改めて思いました。

記:園長 藤本 紘子



今月のおすすめ紹介

昨年の6月の園だよりにも載せていたおすすめを再び!!

今年も横浜にある『海の公園』に潮干狩り出掛けます。もちろんねらうは『マテ貝』私も昨年初めて知った貝ですが、今年も張り切ってマテ貝採りに出かけます。味は癖がなくとても美味しい貝なのですが、市場に出すには、コスト面等デメリットが多く、一般には販売されていません。昨年は持ち帰ったマテ貝を、マテチャウダーにして食べました。ゴールデンウィーク、良かったらちょっと足を伸ばして行ってみたいかがですか?

